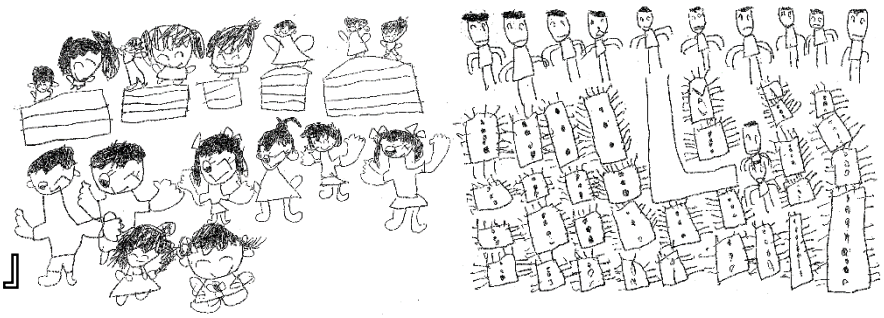
園だより



令和６年 11 月１日

社会福祉法人新田保育園

園長　大西　陽子

『つながり』

10 月 26 日、保護者の会主催の『どてのこまつり』が開催され、子どもたち、現保護者、地域の方々、卒園児・卒園児保護者、旧職員等が新田保育園に集いました。まだ工事途中ではありますが、新園庭をお披露目することができ、たのしい時間を過ごすことができました。多くの方々の協力とつながりで、夢が現実になりました。感謝という言葉では足りないのですが言わせてください。本当にありがとうございました。

『どてのこまつり』の文化行事で司会をしてくれたかいとくんとさきちゃんは、新田保育園の卒園児です。２５年前の話になります。かいとくんは、足がとても早く、みんなから「マラソンはだれもかいとには勝てない」と言われていました。「先生の方が速い」と私がいうと「じゃあ、対決してみよう」と、みんなで競争することになりました。数日後、豊島５丁目団地から新田橋までの約１㎞。「ヨーイドン」とみんなでスタートしましたが、すぐにかいとくんと私だけになりました。「本当に早いな」そう思いましたが、大人の意地もあり、ぎりぎりで私が早く新田橋につきました。見えないくらい離れていた子どもたちも続々と到着。「どっちが１番だった？」というみんなの問いに、かいとくんは「かいとが１番だった」と答えました。「やっぱりな～」とみんながうなずいたあと、かいとくんは小さな声で「先生は０番だった」といいました。「うん。そうだね」と話したことを覚えています。その後、小学校のマラソン大会では、６年連続１位だったそうです。

さきちゃんは、卒園前に『みんなで何をして遊びたいか』の話し合いで「りんご組になってさんぽ車に乗りたい」と提案。園長先生（当時は川端先生）たちに見つからないよう、そーっとさんぽ車置き場へ。「はま先生とさきは、あかちゃんね」と私もさんぽ車に乗り、先生役の子どもたちがさんぽ車を押して遊歩道へ出発。「あ～たのしい。さきは自分のことが大好きなんだ」と満足そう。先生はいろんな意味でドキドキしていましたよ。あのころ私はまだ 20 代でした。毎日必死だったけど、みんなと何して遊ぼうか、みんなが笑うことって何だろう。そのことばかりを考えていました。きっとあの子たちと出会っていなければ、こんなに長く保育士を続けてはいなかったと思います。そして 25 年後、どてのこまつりを共につくる未来があるなんて想像もしていませんでした。

先日、次世代（20 代の職員・園長・副園長参加の）会議で、「新田保育園の保育は大変ではないか」という問いに、「子どもとの毎日は、難しいけれど大変ではない。この子たちのためなら全部やりたいと思った。１人ではない、子どもたちとみんなとつくっている。この子たちとなら大変がたのしいと思える」と言っていました。私もあのころそう思っていたな。そして今もその気持ちは変わりません。さあ、次は何しようかな。新しい庭でどんなたのしいことできるかな。みんなで考えましょう。　　文責　濱本昌子

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
11月	頭ジラミチェック・保健指導（３・５歳児）				新田高校保育体験	避難訓練（津波想定）	冬まつり集会					健康体育（３・４・５歳児）		冬まつり集会	小学校給食体験（５歳児）			健康指導（４歳児）		健康診断（０・５歳児）	就学時健診（５歳児）	誕生会・写真の日（焼き芋大会）						冬まつり総練習	→		